

介護老人保健施設 しおさい

症 例 概 要 ご利用者：80代 女性

病 名：アルツハイマー型認知症

利用サービス：長期入所

経 過：ご主人逝去後、認知症の進行と原因不明のパニックにより在宅生活困難となり入所。入所後も孤立・パニックが続いたため、職員全員で声かけ・寄り添いを継続。音楽を好むことに着目し音楽レクを導入。徐々に笑顔が増え、孤立は減少。音楽レクで中心的存在となり、他ご利用者との交流が活発化。音楽と寄り添いによる支援がご本人の安心と笑顔につながった事例。

内 容

ご主人のご逝去後、認知症が進行し、たびたびパニックを起こして救急搬送されることがありました。しかし原因は明確でなく、次第に在宅での生活が難しくなり、当施設への入所が決まりました。

入所後も突然のパニックが続き、周囲の利用者は距離を置くようになり、ご本人は孤立する時間が増えていきました。私たち職員は「まず安心を取り戻すこと」を第一に考え、優しい声かけと寄り添いを続けました。「大丈夫ですよ。私たちはここにいます」と真心を込めて伝え、リハビリ・介護・看護の全職員でその想いを共有しました。一貫した温かな関わりはやがて確かな信頼となり、ご本人が音楽を好むことに気づき、音楽を取り入れたレクリエーションを始めました。音楽が流れると自然に踊り、手拍子をし、歌声を響かせる姿が増え、笑顔で過ごす時間が次第に増えていきました。さらに、職員はご本人が他の利用者にとって温かく優しい存在であることを伝え、会話しやすい環境づくりにも努めました。その結果、ご本人は音楽レクの中心的存在となり、他のご利用者からも自然に声がかかるようになりました。以前感じられていた“怖さ”は消え、周囲との温かなつながりが生まれました。

今年の納涼祭では、職員が心を込めて着付けた浴衣に袖を通し、明るい笑顔で他のご利用者と過ごす姿がありました。その姿はまさに“キラキラ”と輝いていました。ご家族には、その時の写真と共に手紙をお渡しし、「笑顔で過ごせている姿を見て、本当に嬉しかったです」と涙ながらに感謝の言葉をいただきました。

音楽と寄り添いにより心がほぐれ、笑顔を取り戻された変化は、私たち職員にとってもかけがえのない喜びです。不安のない環境と「あなたはひとりではない」という気持ちを届け続けた日々が、ご本人の笑顔と周囲の温かな輪を生み出しました。この取り組みは、ご本人が最も輝ける瞬間を生み出し、希望と感動を届けた症例です。

看護：パニック時の安全確保と安心の声かけ、状態観察・情報共有を実施。

介護：日常生活への寄り添い、孤立防止、音楽レクリエーションや納涼祭での支援を担当。

リハビリ：音楽を活用した活動の企画・実施、身体機能の促進、安全確保を行い、笑顔と意欲の回復に貢献。

栄養課：食事環境の整備と支援、健康維持のための栄養管理を実施。

アロマセラピスト：触れるケアを通じて安心感を提供。

事務、連携：行事やイベントサポートによる資格者寄り添い時間確保